

＜感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止＞
感染対策の基礎知識と具体策

～インフルエンザ～

所属 _____

氏名 _____

この研修の目的

- ・ インフルエンザの発生要因を理解し、その予防に努めることができるようになる
- ・ インフルエンザ発生時の対応を学び、症状悪化や二次感染を予防できるようになる

MEMO

インフルエンザとは

- ・ インフルエンザとは「インフルエンザウイルス」によって引き起こされる感染症
- ・ 主に()に流行しますが、新型インフルエンザは夏季にも流行する
- ・ 高齢者がインフルエンザに感染すると、()し、()場合がある

MEMO

インフルエンザと風邪の違い

	インフルエンザ	風邪
発熱	高い()	微熱程度
主な症状	()の症状に加え、発熱、関節痛、筋肉痛、倦怠感 など	喉の痛み、咳、鼻水 など
発症	()に	ゆっくりと
合併症	() など	ほとんどない
発生状況	流行性()	散发性

MEMO

インフルエンザウイルスとは

- ・ インフルエンザウイルスには、大きく分けてA型・B型・C型の3種類がある
 - ⇒ 特に大きな流行は()と()
- ・ インフルエンザウイルスは風邪ウイルスと違い、空気中に漂い()生存できるため、ウイルスが含まれる空気を吸い込むだけで感染してしまう
 - ⇒ 感染が()しやすい

MEMO

インフルエンザ症状への対応は？

発症から()に「抗インフルエンザ薬」
を服用する

＜抗インフルエンザ薬とは＞

- ・ 症状が悪化しないよう、体内にいるインフルエンザウイルスの()を防ぐ
- ・ 服用しない場合と比べ、発熱期間が()
- ・ ウイルスの排出量が減少する

しかし、服用したからといって、すぐに完治する
わけではない！

⇒ ()する可能性がある！！

MEMO

介護施設でのインフルエンザ発生例

- ・ 入所者100名中28名と職員7名、計35名がインフルエンザを発症し、80歳代の男性入所者が()
⇒ 施設は、「男性の死因は心筋梗塞であり、インフルエンザとは直接関係ない」と説明
- ・ 2週間程度で一気に感染が広がり、適切な対応が図れなかった可能性がある
⇒ 管轄保健所へ報告、立ち入り検査を実施
- ・ 全入所者、全職員へ()の予防投与を行い、事態が終息するまで、新規入所者およびデイサービス、ショートステイの()した

MEMO

インフルエンザが発生するとどうなる？

①入居者・利用者への影響

- ・ 感染してから()の潜伏期間を経て()に発症
⇒ 38℃以上の高熱、関節痛、筋肉痛、頭痛、全身倦怠感、食欲不振などの()
- ・ その後、咳、喉の痛み、鼻水等の()が出現
- ・ 通常は()で症状が落ち着き、治癒する

MEMO

インフルエンザが発生するとどうなる？

②職員への影響

- ・ インフルエンザは施設内で自然発生しないため、職員(または面会者など)の持ち込みによって感染する可能性が高い
⇒ 正しい()の励行や適切な()が必要
- ・ 個室管理などの対応が必要となる場合は、単純に職員の()が大きくなる
- ・ 職員自身も感染の可能性があるため、精神的負担感も発生し、組織の()を生み出す要因にもなり得る

MEMO

インフルエンザが発生するとどうなる？

③施設運営への影響

- ・ マスクや手袋、消毒液などが必要となり、
()を伴う
＜一般的な物品購入費用＞
マスク50枚1000円／手袋50枚1,000円
- ・ 新規入所者やデイサービス・ショートステイなどの休止により、()の減少が考えられる
- ・ 保健所からの公表、新聞やテレビで報道などがあると、施設に対する()を失う
⇒ 以降の運営に大きな影響を及ぼす

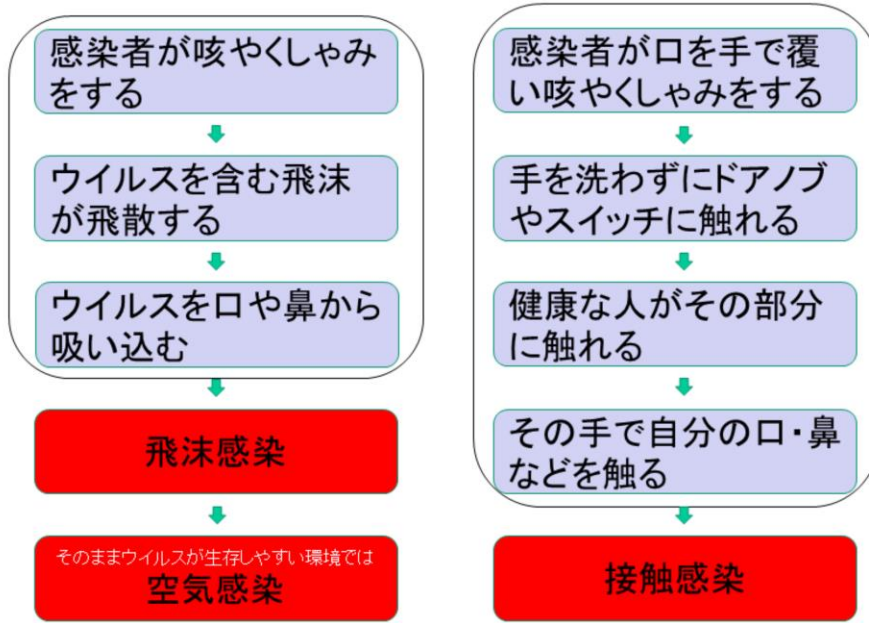
MEMO

インフルエンザの感染経路と遮断方法

- ・ インフルエンザの流行は、一般的に()からスタートし、()での感染を経て、社会全体に拡がるといわれている
- ・ 感染者が触った()や()などから感染することもある
- ・ インフルエンザウィルスには、()が有効
⇒ 流行の時期に限らず、施設内ではアコールを用いた消毒を行うと良い

MEMO

施設内での感染経路例



MEMO

インフルエンザの予防策

- ・ 日頃から() (標準予防策)を徹底する
⇒ ()が重要
- ・ シーズン前に()を行う
- ・ 流行時期にはできるだけ人混みは避ける
⇒ 外出する際には()を着用する
- ・ 施設内の湿度を()に保つ
- ・ 栄養をしっかり摂り、体調管理を管理する

MEMO

咳エチケット

- ・ 自身が咳やくしゃみをしている時は()
を着用する
 - ・ 咳やくしゃみをする時、マスクを着用してい
ない場合には、ティッシュやハンカチなど
で()を押さえ、他の人から()、
離れる
- ⇒ 鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐ
に()に捨てる

MEMO

インフルエンザにいち早く気づくために

①観察のポイント

- ・ 施設では、感染症そのものを無くすことは難しい
- ・ 異常の早期発見に向け、入所者の普段の様子を把握しておくことが重要

ポイントは？

○() ○() ○()
○() ○() ○() ○()

◎地域でのインフルエンザの流行も把握しておく！

MEMO

インフルエンザにいち早く気づくために

②報告のポイント

以下に該当する項目が()現れた場合には、
看護師に相談、医療機関の受診を検討する

1. ()

2. ()

3. ()

4. ()

さらに

⇒ インフルエンザの人に()したか？

MEMO

インフルエンザ予防における 介護職の役割

1. 重症化に注意

高齢者は、基礎疾患や免疫力低下により、肺炎を伴うなど重症化することがある

⇒ ()を見逃さない

2. 感染経路の遮断(「飛沫予防策」の徹底)

インフルエンザ(疑い含む)の方と接する時には必ずマスクを着用する

⇒ 感染者は原則として()

MEMO

インフルエンザ予防における 介護職の役割

3. 標準予防策の徹底

流行の有無に関わらず、日頃からスタンダードプリ
コーション(標準予防策)を徹底する

⇒ ()に繋がる

感染のリスクを自覚しないまま、()な
行為によって()してしまう事がない
ように、正しい知識と技術を身に付けましょう

MEMO
